



- ☆生き生きとした内川の子ども
- ・進んで学び、よく考える子ども
- ・思いやりのある、やさしい子ども
- ・元気で、たくましい子ども



天国からの年賀状



「9月15日」、717年のこの日、元正天皇が養老の滝（岐阜県）を訪ね、年号を「養老」と変えました。それは、老いた親に孝行する息子の説話にちなんだ名称でした。

この故事にならって、長い間社会につくした老人を敬愛しようということで、1951年にこの日を民間で『としよりの日』と決めました。それから15年後の1966年に、正式に『敬老の日』と制定されて国民の祝日となりました。2003年には、ハッピーマンデー制度により、9月の第3月曜日が『敬老の日』となりました。（今年は9月16日が『敬老の日』）

9月9日（月）の全校集会では、ある学校のA先生のおばあちゃんのお話をしました。

来週の月曜日は『敬老の日』です。内川の子どもたちは全員、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らしています。なかなか、「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えることはできないと思いますが、自分の気持ちを伝えて欲しいと思います。



校長の話

A先生の父親は、A先生が6歳（小学校1年生）の時に病気で亡くなりました。36歳の若さでした。それからA先生は、兄弟2人母親一人に育てられました。

高校卒業後、大学へ行くためのお金がなく非常に苦しい時に、祖母（父方の祖母）からの助けがあり、2人の兄弟は大学へ進学し勉強を続けることができました。

兄弟は大学を卒業し、一人はサラリーマン、一人は学校の先生になりました。A先生は、祖母が大好きで、休みの日になると祖母の家に遊びに行きました。独身時代も結婚してからも。遊びに行くと必ず話してくれたことは、父親のことだったそうです。中学校を卒業して家業の商売について祖母を助けたことなど、A先生の知らない父親の姿をいつも話してくれたそうです。行くたびに同じ話だったようですが…。

A先生の祖母は、90歳を過ぎてても元気に働いていました。「120歳まで生きるんだ。」と話していたそうです。しかし、1995年1月にかぜをこじらせて入院しました。その年の3月8日の朝方、93歳で、A先生の父親（息子）のもとへ旅立ちました。

祖母が亡くなってから6年たった2001年のお正月、A先生のもとに亡くなった祖母からの年賀状が届いたのです。6年前に亡くなったはずの祖母から…

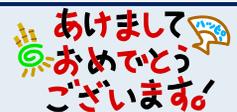
1985年9月、茨城県では「つくば万博」が開かれていて、A先生の祖母も見学に行きました。その中で、15年後に届く「年賀状」を購入し、A先生に出したのでした。当時A先生は25歳、会津の小さな中学校で先生をしていました。2ヶ月に1度くらいは実家に帰り、祖母の家にも遊びに行っていたそうです。まだ独身でした。

A先生に送られた年賀状には次のようなことが書かれていたそうです。



この年賀状が届く頃には、〇〇は結婚して子どももいて、幸せな暮らしをしていることと思います。仕事も順調のことでしょう。…

家族を大切にしてください。母親を大切にしてください。まわりの人への感謝の心を忘れずに生活してください。



当時83歳の祖母が自分のことをこんなにまで心配してくれていたことを知ったA先生は、この「天国からの年賀状」を読んで涙を流したそうです。大好きだった祖母からの、6年前に亡くなった祖母からの思いもよらぬ最高のプレゼント、「一生の宝物」と話していました。

9月16日（月）の「敬老の日」には、A先生は祖母のお墓に行ってお話をしてくると言っていました。現在の生活のこと、家族のこと、仕事のこと、今までいろいろ人に支えられてやってこれたこと、などなど。

そして、「これからも『感謝の心』を常にもって生きていくので、見守ってください。」とお話してくるそうです。





矢祭町教育ポータルサイト5号!

9月11日現在のアクセス数が2万3千件を超えています多くの方々に見ていただけていることに感謝しております。9月上旬の様子です。

●2013/09/03 自己ベストが出たよ!水泳記録会 | by:内川小校長

4名の保護者の力強い応援もあり、18名のスイマーは、自己ベストをねらおうと挑戦した記録会になりました。1年生「ビート板25m自由形」、2年生「25m自由形」、中・高学年「25m自由形」・「25m平泳ぎ・背泳ぎ」・「50m自由形」に全力投球でがんばりました。また、1・2年生の「宝拾い」や中・高学年の3チーム対抗合計100mリレー(4人)も行われました。泳ぎの得意な児童が37.5m泳ぎ、苦手な児童は12.5mとするなど助け合いながら100mを泳ぎました。詳しい結果については「学校だより」で紹介します。



●2013/09/05 ペットボトルで浮くことができたよ! | by:内川小校長

不意に川や海に落ちたらどうすれば命が助かるのか?慌てず落ち着くことが大切ですが、そんな余裕はないはず。慌てず落ち着いて対処するには正しい知識とトレーニングが必要です。洋服や靴は脱いではいけません。服は体温低下や外部損傷から保護してくれます。また、服を着ていたほうが浮きやすいと言えます。児童の靴は、靴もそれ自体に浮力があります。しかし、長い時間浮いていることは難しいものです。「背浮き(大の字で仰向けの姿勢)」はできない児童も、ペットボトルがあれば、ペットボトルに捕まって浮く「ラッコ浮き」は比較的簡単に出来ました。子どもたちは、真剣に取り組んでいました。自分の命を守るために。



●2013/09/09 PTA東北大会 すばらしい大会でした! | by:内川小校長

9月7日(土)、8日(日)の2日間開催された第45回東北ブロックPTA研究大会福島大会。

1日目は「第4分科会 家庭と小学校教育」に参加し、「家庭と小学校教育の関わりを考える～学習習慣は生活習慣から～」という演題で、桜の聖母短期大学教授の西内みなみ先生の講演を聴く機会に恵まれました。子どもの主体性を大事にする関わり方では、子どもに寄り添うことの大切さや、他者と比べないその子自身の進歩を認め褒めることの大切さなどを学ぶことができました。

2日目の記念講演は、1975年、エベレストに女性世界初の登頂に成功した、登山家の田部井淳子さんで、「人生は8合目から」という演題で、お話を聴くことができました。73歳の田部井さんは、各国の最高峰の登頂を目標に、今でも海外登山に出かけています。2025年までの予定を立て、「明日はこれがある」ということが元気の源だそうです。限られた時間しか生きられないのだから、生まれてきてよかったと思える生き方をするために、毎日毎日の積み重ねである自分だけの歴史を豊かなものにしていくために、精力的に活動されています。田部井さんの生き方に感動しました。小さな一歩の連続が富士山へもヒマラヤへも続く。一歩が大事、いま、ここ、の具体的な一歩が大事。

2日間、PTA会長の藤田さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

